

NPOがキャリア教育

生き方を考えよ…母親ら立ち上がる

NPO法人キーパーソン21(朝山あつこ代表理事)は、川崎市を中心に、全国の小・中学校、高校を訪ねてキャリア教育を手掛ける。3人の子どもを育ててきた朝山さんが、自分の子どもが通った学校の荒れた様子を見て、自ら、子どもたちに生き方を考えてもらおうと始めた。連携している学校では、「総合的な学習」などに位置付け、同法人が話し合っただけで開校してきたゲーム形式の授業を実施。現役の大学生が授業の運営から準備、資金調達まで行い、大学生が社会人経験を積む場となっていることも大きな特徴だ。



学生スタッフの3分の1ほどは教員志望。学生自身も成長していく

「総合」でム 自分を深く見詰め直す「ビンゴ」

「総合」でム 社会の広さ知る「お仕事マップ」

発足は平成12年。朝山「ゴカード」といっても、縦「野球」と記入。3人目、さんと同じような立場の横4ますずつの枠が印刷。4人目と続けたら、再び、母親仲間らが集まり、子記してあるだけで、数字は1人目の子がサッカー以外の「好きなもの」を4つどもたち自身が生き方や記していない代わり、外の「好きなもの」を挙げてもらうことに狙い。将来を考える授業について、各班で、児童・生徒が順に、4周すると、16ますが、1つ、2つはすべて、知恵を出し合った。番に自分の「好きなもの」すがすべて埋まることになる。現在でもこのNPOがを挙げ、ますを埋めてい学校に授業に取り入れてく。

学校の授業に取り入れてく。1人目の子が「サッカー」が完成。後は、1人ずつ、自分自身を少し深く見詰める。ビンゴカードに記入してめ直すことになる。

「お仕事マップ」というプログラムもある。児童に4人ずつ班をつく。1人目の子が「野球」を挙げたら、別のますに「野球」を挙げたら、別のますに

学生スタッフの職業訓練にも

「サッカー」と読み上げ、まずに印を付ける。最初、同じ列の4ますに印がそろった人が勝ちとなる。このゲームでは、「自分の好きなもの」を4つ挙げてもらうことに狙いがある。1つ、2つはすべて挙がっても、3つ、4つとなると、思い悩む子も出てくる。ここで、

「学生自身が大きく育

ビンゴゲームを通して子どもたちは自分を見詰め直す



「子どもの世界は狭い場所でもあります。敵しく戦えることもありません。話す。各校では、職場体験など、一連のキャリア教育関連事業の一部として、90〜100分程度の授業を担当させてもらう。学生スタッフと共に学校を訪ね、考えがまとまらない児童・生徒に声を掛けながら、自分の生き方を考えてもらっている。

有料講習会が活動資金源に

もともとは、川崎市を中心に始まった活動だが、市外からも注目を集める。青森青年会議所と連携し、授業プログラムを伝授。青森市内の中学校の多くで、同青年会議所の会員が授業を行っている。

本年は、九州地方に教室を持つ学習塾と連携。塾生に対してキャリア教育が行えるよう、授業プログラムの実施方法を教える予定だ。

こうしたプログラムは有料の講習会を通して教えている。同NPOの活動資金となる。過去には、助成金を活用して活動していた時期もあったが、安定的に得られるとは限らず、また、使用目的の制限が厳しいため、助成金に頼らないで資金を確保する方策の道を探ってきた。

講習会は首都圏内でも定期的に開いている。PTA関係者などの参加も歓迎という。

問い合わせ先044・431・0420